

第4は、『石見銀山をはじめとする歴史文化を生かした創造的な人づくり』であります。

(石見銀山遺跡)

はじめに、世界遺産「石見銀山遺跡」についてであります。

世界遺産登録 10 周年については、民間主体により実現したオペラ「石見銀山」をはじめ、各種の記念行事やイベントの開催、大久保間歩の公開区域の拡大など、官民一体となった保全と活用の取り組みに、一定の成果があったと認識しております。

一方で、市全体の盛り上がりや機運醸成に課題が残ったと捉えており、改めて、市民が石見銀山遺跡の価値について理解を深めることが必要と考えております。

市民の方々が石見銀山遺跡の価値に誇りを持ち、自慢し、行政と一体となって、この世界遺産を未来に引き継いでいくため、市民が石見銀山遺跡を学習する機会を安定的に提供するとともに、これまでの取り組みを検証し、10 年後を見据えた石見銀山遺跡の保全や活用について検討してまいります。

大森町の町並み保存地区にある、市指定文化財「宗岡家住宅」については、町並みの価値や魅力を伝える建物の一つとして、このたび改修工事を終えました。

今後一般公開しながら、宿泊体験もできる武家屋敷としての活用を目指し、試行・検討を行ってまいります。

保全・整備に関しては、銀山山頂に位置する仙ノ山地区での発掘調査に着手し、遺産の価値を明らかにするとともに、佐毘売山神社周辺見学道の整備や石見銀山街道の復旧整備などに取り組み、見学者の利便性を高めてまいります。

また、江戸時代に銀山から瀬戸内の尾道まで銀を運んだ「石見銀山街道」について、関係する沿線 7 市町の連携により、日本遺産認定を目指してまいります。

(学校教育)

次に、学校教育についてであります。

「地域づくりは人づくりから」との考えのもと、これからの大田を担う子どもたちに対し、地域ぐるみで子どもたちを見守り、支える体制を整え、責任ある教育を行うことが市や市民に課せられた責務です。

そのため、幼稚園、保育園から高校に至るまでの各段階における「育ちと学びの目安」を分かりやすくまとめた、統一カリキュラムを平成 29 年度策定しました。

引き続き、学校のみならず、保護者や地域住民を対象とした説明会を開催するなど、その周知、定着に向けて取り組み、教育の魅力化につなげてまいります。

また、ふるさとを愛し、心豊かでたくましい子どもを育てるため、地域のひと・もの・ことを活かした、ふるさと教育の充実に取り組むとともに、自然体験や集団活動を通じた確かな学力の育成や豊かな人間関係づくりを目指し、宿泊体験活動を拡大してまいります。

さらに市内の県立高等学校 2 校の魅力化につきましても、引き続き魅力化コーディネーターを配置し、地域の多様な人たちとの交流や、地域課題の解決に向けた探求学習、小中学校との交流学習などの取り組みを支援してまいります。

教職員については、学校における事務処理等の効率化を進めるとともに、部活動に外部指導者を導入するなど、負担軽減を図ってまいります。

平成 32 年度から本格的に小学校に導入される外国語活動については、円滑な実施に向け、外国語指導助手を配置するとともに、小学生を対象とした英語教室の開催や指導者の育成に努めてまいります。

学校校舎等の環境整備については、大田第 2 中学校の体育館大規模改修工事に向けた実施設計や小中学校 6 校のトイレの洋式化を進めるほか、空調設備の整備に向けた教室環境の調査を実施してまいります。

(社会教育・文化・スポーツ)

次に、社会教育・文化・スポーツについてであります。

生涯学習については、市民がふるさとに対する誇りと愛着を持ち、主体的に地域課題の解決に取り組むことができる人づくりを、公民館や学校、家庭、地域と

連携して取り組んでまいります。

スポーツの振興については、「大田市健康体力づくり市民大会」、「三瓶高原クロスカントリー大会」の開催や、指導者の育成・支援などにより、関係団体と連携しながら、誰もが年齢や体力に応じて気軽にスポーツに楽しむことができる環境づくりに取り組んでまいります。

現在、様々な文化・スポーツ活動を通じて多くの方々が全国大会などに参加されています。文化・スポーツ活動等の振興を図るとともに、各種全国大会さらには国際大会に参加する市民や大田市出身者等の活躍を称え、激励するため、新しく激励金交付制度を創設してまいります。

（山村留学）

次に、山村留学についてであります。

山村留学事業については、市外・市内の子どもたちに対する教育・学習の場の提供に加え、交流人口の拡大や地域活性化につながるものにする必要があります。

そのため、「移住を促し、つながる山村留学」へと発展させるよう、情報発信と地元組織との連携を一層強化してまいります。

また、教育ビジョンに掲げる「生き抜く力を育てる」ため、市内の小学校が毎年行っている宿泊自然体験活動のコースに山村留学センターを組み込み、センター独自のプログラムを市内小学生が体験できるよう、準備を進めてまいります。